

(平成18年6月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>6月期の野菜の市況については、5月期に引続き低温・日照不足による影響が一部の産地で見られたが、後半から順調な入荷となり、全体としては、前年同期を3%上回った。</p> <p>価格は、加工用、業務用の需要の伸びから、安値で推移していた前年同期を24%上回った。</p> <p>品目別には、きゅうり、なす、ピーマンが入荷減の単価高で推移し、にんじん、ほうれんそう、レタスが入荷増ながら単価高で推移した。ばれいしょは、前年を上回る入荷となり、価格は前年を下回った。</p> <p>根菜類は、入荷が4%増加し、価格は58%高となった。</p> <p>葉菜類は、入荷は前年並み、価格は33%高となった。</p> <p>果菜類は、入荷が8%減少し、価格は45%高となった。</p> <p>土物類は、入荷が24%増加し、価格は3%安となった。</p>
果 実	<p>果実の入荷状況については、昨年豊作であったりんごを除いては、主力品目のほとんどが春先からの天候不順の影響を受け、入荷の遅れが生じた。さらに、施設果物は、原油価格の高騰から作型を遅らせてきている産地もあり、入荷量の減少に大きく影響した。全体としては、前年同期を18%下回った。</p> <p>価格は、主力品目の入荷減により、前年同期を18%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷は前年並み、価格は8%安となった。</p> <p>りんごは、入荷が24%増加し、価格は11%安となった。</p> <p>ぶどうは、入荷が30%減少し、価格は20%高となった。</p> <p>メロンは、入荷が24%減少し、価格は28%高となった。</p> <p>スイカは、入荷が31%減少し、価格は20%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p> <p>長大根</p> <p>洋人参</p>	<p>青森，北海道を中心とする入荷。春大根の産地の切り上がり が早く，青森，北海道への移行がスムーズとなり，入荷量は前年並 みとなった。</p> <p>価格は，順調な入荷ながら，上位等級の割合が多く，前年同期 を36%上回った。</p> <p>和歌山，長崎，兵庫を中心とする入荷。5月以降の長雨，低温 からL，中心の入荷であったが，下旬以降は2Lサイズも増加 し，下旬以降順調な入荷となり，全体としては，入荷量は前年同 期を9%上回った。</p> <p>価格は，入荷増の状況ながら，天候不順からくる品薄感から， 単価安で推移していた前年同期を87%上回った。</p>
<p>【葉菜類】</p> <p>はくさい</p> <p>キャベツ</p>	<p>茨城，長野を中心とする入荷。各産地ともに低温の影響を受け， 1週間程度の生育遅れがあったが，全体としては，前年並みの入 荷となった。</p> <p>価格は，加工用，業務用の荷動きが良好で，安値で推移してい た前年同期を96%上回った。</p> <p>茨城，九州を主力に兵庫，愛知の残量と下旬からの長野，群馬 からの入荷。茨城，九州ものの品質低下が見られたが，全体とし ては，前年並みの入荷となった。</p> <p>価格は，加工用，業務用の荷動きが良好で，安値で推移してい た前年同期を84%上回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>京都，北海道，岐阜を中心とする入荷。春先から生育が遅れて いたが回復し，全体として前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら，安値で推移していた前年同期を6%上 回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野，群馬からの入荷。長野産の入荷が遅れていたが，大玉傾 向となり，全体としては，前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は，加工用，業務用ともに荷動きが良好で，量販店の特売 需要もあって，前年同期を34%上回った。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>宮崎，高知を中心に徳島，愛媛，近郷産地からの入荷。各産地ともに天候不順から，全体的には前年同期を8%下回った。 価格は，入荷減から前年同期を59%上回った。</p>
<p>なす</p>	<p>熊本，高知，岡山を中心とする入荷。ハウスものの樹勢弱く，6月中にハウス産地がほとんど終了。露地産地が10日間程度の生育の遅れが出ており，後続産地の順調な入荷とならず全体的には前年同期を13%下回った。 価格は，入荷減の品薄感から，前年同期を64%上回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>九州産地の残量と近郷産地，北海道を中心とする入荷。遠地ものは，前半は順調な入荷となったが，後半入荷が減少した。近郷産地は，天候不順から不安定な入荷となった。全体としては，前年並みの入荷となった。 価格は，入荷が不安定になったことから，激しく相場が動き，結果的に前年同期を36%上回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>宮崎，高知，大分，茨城を中心とする入荷。春からの天候不順の影響を受け，入荷量は終始不安定であった。全体としては，前年同期を3%下回った。 価格は，入荷減から安値で推移した前年同期を50%上回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>長崎を中心とする入荷。平年より入荷が1～2週間程度の遅れたため，中下旬にかけて順調な入荷となった。全体としては前年同期を31%上回った。 価格は，入荷増から高値推移であった前年同期を15%下回った。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>佐賀，兵庫を中心とする入荷。兵庫は生育の遅れから，入荷が中旬に集中し，全体としては前年同期を29%上回った。 価格は，入荷増ながら前年並みとなった。</p>
<p>【その他野菜】 青梅</p>	<p>和歌山を中心に奈良，福井，京都からの入荷。各産地ともに低温日照不足の影響を受け，10日程度の生育の遅れから中下旬に入荷が集中し，全体としては前年同期を12%上回った。 価格は，入荷増に加えて，本来の需要期を入荷がずれたため，前年同期を30%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	<p>和歌山，福岡，佐賀，長崎，宮崎からの入荷。各産地とも春先の低温の影響に加え，原油の値上がりにより加温をひかえており，出荷の遅れが生じ入荷量は減少。前年同期を20%下回った。価格は，入荷減から，前年同期を8%上回った。</p>
ふじ	<p>青森からの入荷。在庫量は少ないものの，台風の被害を受けた昨年に比較して，入荷量は増加し，全体としては，前年同期を10%上回った。価格は，入荷増を受けて，前年同期を10%下回った。</p>
さくらんぼ	<p>山梨，山形を中心とする入荷。天候不順から1週間程度の生育に遅れがあったが，今月山梨がピークを迎え，全体としては，前年同期を48%上回った。価格は，入荷増により，前年同期を12%下回った。</p>
デラウェア	<p>島根，山梨，大阪，奈良からの入荷。各産地ともに低温，日照不足のため，入荷量は前年同期を33%下回った。価格は，入荷減により，前年同期を25%上回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡，愛知，高知，熊本，宮崎を中心とする入荷。各産地ともに作付面積の減少に伴い出荷量が減少している。特に静岡，宮崎の減少が大きく，入荷量は，前年同期を25%下回った。価格は，入荷減に加えて，業務需要の伸びから，前年同期を15%上回った。</p>
アンデスメロン	<p>茨城を中心に熊本，山形からの入荷。熊本産の面積の減少に加え，山形産の生育の遅れにより，全体としては，前年同期を28%下回った。価格は，メロン類全体の入荷量の減少から，高値で推移し，前年同期を39%上回った。</p>
アムスメロン	<p>熊本，愛媛，鳥取，茨城を中心とする入荷。各産地ともに作付け面積の減少に加え，鳥取産の生育の遅れにより，全体としては，前年同期を45%下回った。価格は，メロン類全体の入荷量の減少から，高値で推移し，前年同期を23%上回った。</p>
すいか	<p>熊本，長崎，愛知，鳥取を中心とする入荷。熊本産が早期に終了し，愛知，鳥取の生育の遅れにより，全体としては，前年同期を31%下回った。価格は，入荷量の減少により，前年同期を18%上回った。</p>